

俺の今までのことを話そうと思う。中一のとまから荒れてんだけど、それはまず家で親父が急に厳しくなったからや。行くことなどできるわけがない。高校へ行けと言って勉強のことばかり話す。仕事に疲れて帰ってくるのはわかるんやけど、酒飲んでからテストのこと言われるのはたまらんかった。テストが悪いときはひどく怒られて、まるで怖かった。勉強せよからといって口を全部捨てられたこともあった。そのことがあってから、家で親父に反発するようになってきた。

学校では、勉強が難しくなっってわからんようになってきた。一学期の途中から先輩たちとよくつるんで歩いた。ケンカをしたり、悪さをしたり、タバコも吸った。授業中、ほかのやつがわかったり、できたりすると、なんであいつにできて俺にできないのやと、くやしめてたままなんだ。それで、くやしめて殴ったり、蹴ったり、いじめたりした。そのときは相手の立場なんか考えなかったし、考えられなかった。許してもらえんかもしれんけど、今ではほんとにひどいことをしたと思う。

なっただで、仲を戻したいと思うって近づいていった。そんな俺は、まるで自分勝手やと思う。

そんな俺が少しずつ変わってきたのは、南とか武田とかが変わってきたからやと思う。あいつらがなんかまじめにがんばりだしてきたら、ム力つくんじやなくて俺もついていきたいって思った。一年生のおわりから三年になるときも、はじめは俺の天下やっと思っただけ、南とか武田らが勉強とか部活ががんばるとのがわかったから、俺も暴れとるひまは無いと思った。それで会長にも立候補したし、勉強もやる気あった。一学期は結構がんばったつもりやっただけど、自分の力は伸びんし、成績も変わらんかった。学校でも家でも、がんばることに耐える力がないで結局、続かんかった。三年になったら親も気合いが入ってきて、親のプレッシャーが一番すごかった。それでだんだんイライラしてきて夏休みの後半は、またケンカしたり、祭りでも泊まり歩いたりした。一学期になって授業以外で、みんないるときは楽しいし、おもしろかった。でも、授業中はなんか落ち着かんし、やっくらわれんかった。

そのころ家では親父が心配して、口には出さなくても勉強せい

それから、町の中を歩くと、き人の視線が、まるで気になった。自分のことを不良かやくまのようにな、悪いように見ると、思った。それで、まるで腹が立った。ほんとに先輩たちとつるんで、悪さをすることしか考えんようになった。親とか先生とか大人とかに注意を受けたら、力いっぱい反抗するしかなかった。そんな自分がものすごく強くなったと思っってきた。それでケンカもいっぱいした。暴力をふるったり、ものを壊したりした。でも、ほんとに負けるのが怖かった。とくにケンカ、ほかにも自分が通用せんところを見せなくなかった。特に女の前では見せなくなかった。

こーちゃんのことでも自分勝手やった。一年のとき、こーちゃんに先輩をとられると思った。頭いいし、運動もできるし、俺よりすごいと思っって、ほんとに尊敬した。でも先輩をとられなくなかった。先を越されたらためやと思うって、なんかあったらやったらうと思っついて、ちょっとしたことからいいじめるようになった。でも先輩が卒業したらそんなことする必要がなくなると、顔でイライラしてるとのがよくわかってム力ついた。それでテストの点数のことで俺を疑ったので、頭にきて大ケンカになった。親父に手を出した。でもそのとき親父は、必死になっって泣きながら俺に話をした。かあちゃんがおらんようになってから、この家を守りながら仕事だけじゃなくて、学校のことでも、うちの中のことでも、その代わりをせんなんと思っってきたこと、自分が就職のために苦労したこと……。そのとき親父の思いがよっわかった。しばらくして俺の気持ちや考えも話した。K高校へ行って、将来はO社に就職したいことも。それを親父もわかったから、がんばって言うてくれた。それで心がすっきりした。今、受験は心配やけど、そんなふうに進みたい。

この三年間、いっしょに生活してきたみんなに、いっぱい迷惑かけたし、いやな思いをさせてきたりして、許されんかもしれんけど、謝りたい。あとちょっとで卒業やけど、このまんま黙って、たままで卒業したくないし、ちょっとでもわかりあって卒業したいと思っただで、話をしたんや。これからはあともすつと友だちでいたいと思う。

今までのこと（中学校向け）

A 教材設定の意図

学校の中において、いわゆる問題行動とか、荒れといった形で表れるものには必ず背景がある、その背景に迫ることが人権教育の第一歩であるといわれている。その背景にこそ、子どもの真実の姿があり、教師自身の子どもに向かう姿勢が問われてくるからである。

重い生活を背負った生徒に、それを克服して強く生きろとだけだけ説教しても、彼らには届かない。生徒の置かれている状況に寄り添いながら、自分自身ときちんと向きあうことを励ます取り組みが必要になってくる。

そうした教師の取り組みとともに重要な位置を占めるのが、彼らを支える仲間・集団の力である。仲間の支えによって生活に正面から立ち向かう力を確かなものにするのである。逆に仲間の視線が、表面的な行動や荒れにとどまってしまうては、彼らは生きることに対し、後ろ向きになっていってしまう。それほど、仲間の力は大きい。

本教材をとおして、クラスの生徒集団が荒れた行動をしている生徒の内面に共感を示すことによって、仲間として支える集団に育つことを期待する。

B 教材の解説

本教材は、中学校一年のときから非常に荒れていたある中学校のクラスでの取り組みから生まれてきた。

その中でも哲郎は荒れの中心だった。哲郎を軸に数人の生徒たちが、授業中でも教師を無視するような大きな声で私語を交わし、まわりの生徒たちはそうした状況の中で無表情、無反応を装っていた。

そんなクラスが、卒業間際に哲郎からこの教材文となった「今までのこと」の話を聞き、彼に伝えるべく全員がそれまでの思いをつづり合い、一冊の文集になった。

その文集には、哲郎に対し「自分の気持ちが落ち着かなかったため、どこにその気持ちをぶつけたいのか迷っていたのだと思う」「今日の哲郎の話を聞いて涙が出た。いつもバカみたいなことをして、みんなを笑わせて、でも本当はつらかったのかなと思つた」と、彼の気持ちをきちんと受けとめている生徒がたくさんいた。また「みんなが不良やとかいったり、みんなとちがう目で見たりして哲郎の心を傷つけていったと思う。哲郎が荒れしたのは自分たちが悪いと思う。荒れる人も悪いと思うが、荒れさせる方がもつと悪いと思つた」と、自分たちの問題としてとらえる生徒もいた。さらに、「哲郎の話を聞いて、自分だけ苦しいんじゃないってやつと気づいた。そのときやつとまわりが見えた」と書いた生徒もいる。こんなふうにして、哲郎の話をきっかけに、よりクラスの仲間のつながりは深まった。

もちろん、哲郎がこの話をするまでの担任の取り組みには並々ならぬものがあった。真剣に哲郎をはじめとする荒れている生徒たちに向き合う教師の姿を見て、まわりの生徒たちも自分たちの問題としてとらえたということ忘れてはいけない。

C 指導上の留意点

① 哲郎の行動の表面ではなく、内面に沿って読みとつてほしい。

② 哲郎の姿に近い生徒がクラスにいるかもしれない。その生徒の内面に教材を重ねながら授業を展開できれば望ましい。その際、クラスの状況、友人関係を把握しておきたい。

D 参考資料

・「一期一会く仲間の思いに出会うとき」

能都町立鶴川中学校三年 池上 悟 編

E 授業の展開例

主な発問・教師の助言	生徒の活動・指導の要領
<p>一 導入</p> <p>① これまでのこのクラスのことについて振り返ろう。友だちとのつながりは深まっただろうか。いいなあと思っただこと、いやだなあと思っただことはなかっただろうか。</p> <p>二 展開</p> <p>② 教材を読ませる。</p> <p>③ 哲郎の行動について考えてみよう。</p> <p>④ 哲郎の行動の原因は何だっただろうか。</p> <p>⑤ 自分のことで、哲郎の気持ちに共感する部分はないだろうか。</p> <p>⑥ 哲郎が変わったのは、どうしてだろうか。</p> <p>三 まとめ</p> <p>⑦ もし自分が哲郎のクラスの一員だったとしたら、哲郎にどう応えるだろうか。そのことと、今のクラスのことを重ね合わせて考え、感じたことをまとめよう。</p>	<p>① クラスのできごとを振り返る中で、仲間としての関わりに気持ちを向けさせ、軽く出せる程度でよい。自由に発言できる雰囲気をつくりたい。</p> <p>② 指名読み</p> <p>③ 文章に沿って拾っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケンカ ・ タバコ ・ 暴力、いじめ ・ 外泊 <p>④ 父親との関係、勉強のこと、友だちのことなど、哲郎なりに悩みがあったことを押さえる。</p> <p>⑤ 生徒からは出にくいかもしれない。教師自身の経験で苦いものがあるれば、ぜひ子どもたちに話してほしい。</p> <p>⑥ 三年生になる前に、仲間の南や武田が変わってきたからだといったことも、一つの真実である。もう一つの変わり目の父親と気持ちが通じ合えたことも押さえる。</p> <p>⑦ クラスの中に哲郎のような生徒がいる場合、表面的な荒れを非難するのではなく、その内面にまわりの生徒たちが気持ちを向けることにより、クラスの仲間づくりを進めたい。</p>